

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型株式投資信託 / ファンド・オブ・ファンズ
信託期間	信託期間は無期限です。
運用方針	投資家の方々の長期的な資産形成のお手伝いをさせていただくことを目的とし、複数のファンドに分散投資することを基本とします。 運用方針としては、経済の変動のダイナミズムを先取りしたアセットアロケーションを前提にファンドの組成に取り組む方針を一貫して行います。
主要運用対象	主として国内外の株式等を投資対象とする投資信託証券を投資対象とします。
組入制限	投資信託証券への投資割合等には制限は設けません。 株式への直接投資は行いません。 同一銘柄の投資信託証券への投資は、原則として信託財産の純資産総額の 50% 未満とします。
分配方針	毎決算時に、収益分配方針に基づいて分配を行います。分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案し決定します。(分配を行わないこともあります。)分配金は税引後、自動的に全額再投資されません。

『ありがとうファンド』

(愛称:『ファンドの宝石箱』)

第4期 運用報告書

決算日 2008年9月1日

2007年9月1日から
2008年9月1日まで

受益者のみなさまへ

皆様の「ありがとうファンド」は9月1日に第4回目の決算を行いました。このことをご報告申し上げますと共に、ファンドを支えてくださっている多くの方々に心より感謝を申し上げたいと思います。

この4年の間、多くの方々から心に染みるお言葉や励ましのお便りをいただきました。それを読み返すにつけ、長期投資ファンドへの期待とその果たすべき役割への思いがますます強まっております。

この一年は市場の変動は激しく、株式市場への逆風が吹き荒れました。しかし足場を固めて柔軟な体勢を保つことで嵐は乗り切れます。

この一年は、更にしっかりした体制を作るべく社員全員で努力をして参りました。これからの長い年月、今年行った一つ一つの努力が大きな礎となって皆様のありがとうファンドを支えていくと確信しております。

今年も我々のファンドの歩みをご報告いたします。ぜひご一読いただきたいと思います。この一年間ありがとうございました。

ありがとう投信

Arigato Asset Management Inc.

東京都台東区上野3丁目19番4号 サカイビル
TEL. 03 (5807) 9710
<http://www.39asset.co.jp>

運用報告書に関するお問い合わせ先

ありがとう投信株式会社

電話番号 03 5807 9710

[受付時間] 営業日の午前 8:30 ~ 午後 5:30

当社ではインターネット上にホームページを開設し、各種情報提供を行っております。

<http://www.39asset.co.jp>

設定以来の運用実績

決算期	基準価額			投資信託証券 組入比率	純資産総額
	(分配落)	税込 分配金	期中 騰落率		
(設定日) 2004年9月1日	円 10,000	円 -	% -	% -	百万円 161
1期(2005年8月31日)	10,705	0	7.1	76.0	813
2期(2006年8月31日)	12,526	0	17.0	79.4	3,255
3期(2007年8月31日)	12,681	0	1.2	89.3	6,857
4期(2008年9月1日)	10,075	0	20.6	92.0	6,847

注1) 基準価額は1万口当り。騰落率は期首比。

注2) 当ファンドの運用方針に適切なベンチマーク(参考指数)が存在しないため、上表には市況を併記してありません。

当期中の基準価額等の推移

年月日	基準価額		投資信託証券 組入比率	純資産総額
		騰落率		
(期首) 2007年8月31日	円 12,681	% -	% 89.3	百万円 6,857
9月末	13,221	4.3	89.5	7,326
10月末	13,016	2.6	91.9	7,343
11月末	12,353	2.6	95.0	7,151
12月末	12,438	1.9	95.9	7,351
2008年1月末	10,818	14.7	96.4	6,494
2月末	11,409	10.0	95.9	6,961
3月末	10,456	17.5	95.0	6,513
4月末	10,950	13.7	94.1	6,936
5月末	11,043	12.9	94.0	7,133
6月末	10,792	14.9	93.2	7,103
7月末	10,348	18.4	93.4	6,932
(期末) 2008年9月1日	10,075	20.6	92.0	6,847

注1) 基準価額は1万口当り。騰落率は期首比。

注2) 当ファンドの運用方針に適切なベンチマーク(参考指数)が存在しないため、上表には市況を併記してありません。

当期の運用状況について

ありがとうございますファンドの第4期目の運用報告を申し上げます。
丁度一年前の第3期目の運用報告書の冒頭は以下のような文章でした。

「ありがとうございますファンドの決算期に当たる一年間の日本の株式市場を振り返りますと、一言で申し上げて誠に冴えない展開でした。トピックスの動きで見ますと平成18年8月31日と平成19年8月31日の比較で、1.60%の下落でした。」

あれから一年後のご報告は、第3期とは比較にならないくらいに厳しいものになりました。
まず、ありがとうございますファンドのリターン（2007年8月31日と2008年9月1日の比較）は、20.6%の大幅下落でした。まずこの結果には皆様に真摯にお詫びを申し上げなければなりません。

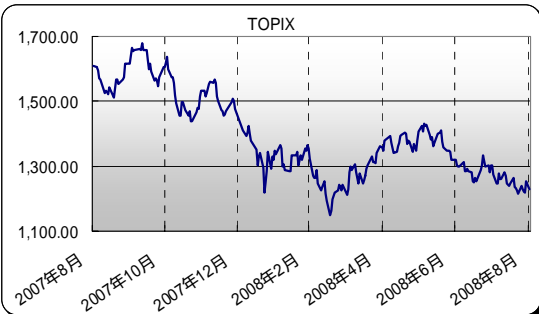
次にはこの一年間の間に何が起こったのかをご説明いたします。

まず世界の株式市場のこの一年間の騰落を見えます。右表のように世界的に株式市場は大きく下落しました。ここ数年急激な上昇を続けてきた中国市場や、資源の高騰を受けて上昇したロシア株式が下落をしているのにはそれぞれ独自の背景があると思いますが、その他の株式市場の下落には共通するものがあります。そのスタートになったのが2007年の春に起こった上海ショック、ニューヨークショックと言われる2回の株価急落です。これはショックの後に短期間に株価が回復しました。しかしその後2007年の8月にサブプライムショックと言われる世界同時株安が起こりました。

これらの一連の動きはその後の世界的な景気の後退の先触れとなった動きでした。

サブプライム問題はアメリカの住宅ローンを証券化した金融商品の価格の急落が発端でしたが、もともとの商品の欠陥に加えて、商品が複雑化して価格が見えにくくなっていったため、通常では考えられない損失をもたらす商品になっていました。しかもアメリカのみならず世界の他の国の投資家も保有していたため、もともと伝染性の強い金融の世界では極めて広範囲に影響を引き起こしてしまいました。

その後2007年10月ごろ一時小康状態に入った後は、世界の金融市場は極めて不安定な状態に突入しました。金融市場の過剰なリスクの積み重ねが崩れて、金融機関同士の間で信用が失われる事態が発生したのです。これは金融市場の根本を揺るがす危機です。しかも単に金融市場に留まらず、米国の住宅市場という一般の人々の生活と直結する経済に衝撃を与えてしまったので、市場の混乱が広く経済全般に大きな影響を及ぼすことになってしまいました。



すなわち、連動性が高まって、ひとつの市場の変動が直ぐに世界の多くの市場に伝染する傾向が高くなった金融市場で、欧米の大手金融機関の信用度に重大な懸念が生じるという「金融システム」のリスクが非常に高くなった上に、一般の経済もその混乱に引き摺られるように、景気後退の懸念が高まるという二重の問題が同時に発生したのです。米国のFRBを中心として各国の中央銀行は金融システムリスクに対して流動性をたっぷり供給することで対処しようとしてきました。これは極めて伝統的な手法です。中でも金融危機の震源地であるアメリカの資金供給が大きくなりました。これがドルの過剰の状態を作り出し、それまでのドル安の傾向を一層強め

TOPIX	23.5%
上海総合指数	55.4%
ロシア MICEX	18.5%
独 DAX	15.9%
米国 SP500	13.3%
香港 HSI	12.8%
英 FTSE	11.1%
インド SENSEX	5.4%
ブラジル BOVESPA	+1.0%

注)騰落率は現地通貨ベース

注)騰落率は2007年8月31日と2008年9月1日の比較

ることになりました。しかも世界の投機資金がこれを好機と捉えて「ドル安・資源高」という取引の組み合わせを市場に余りある流動資金を活用して押し進めました。これがインフレの心配を生み、極めてゆがんだ資産の価格の不均衡を産みました。ドルは安く原油をはじめとする商品は暴騰する、株式市場の変動は極めて高くなる、といった具合です。中東をはじめロシアやブラジルなどの資源国には次々に資金が流れ込みこれらの国の景気を押し上げました。一方資源の輸入国は結果的に富を資源国に取られた形になって景気の下押しの要因になりました。

この一年を振り返りますと、市場環境としては極めて厳しいものでした。金融システムの危機、インフレ懸念、景気後退懸念、デフレ懸念という4つの違うグローブで殴られ続けるようなものでした。

次にはそのような環境でありがとうファンドをどのように運用してきたかをご説明いたします。

2007年の夏にサブプライム問題が表面化して世界的に株式市場の暴落が起りましたが、それはすでに春先に起こっていた2度の株価ショックと関連するものでしたし、タイミングはともかくいずれ起こるものとの想定はしていました。その後はこの大規模で複合的な危機に対する対策が各国の中央銀行を中心に機動的に行われました。このような対策の効果の見極めには時間が必要です。ただし、全てが明白に見極められた後には投資の機会は残っていません。したがってありがとうファンドとしても急落する株式市場に対して、少しずつ投資を行ってきました。そして2007年11月から年末にかけて再び大きく世界の市場が下落をしたときに更に投資を進めました。

(この辺はありがとうファンドの現金比率の推移をご覧くださいと確認していただけたらと思います)

ただ、世界の株式市場の調整は更に続き今年の3月にはアメリカの金融危機の緊張は更に高まり、アメリカの大手証券の破綻救済や米国住宅ローンの半分以上に関わっている住宅会社の信用危機が深刻化するなどほとんどパニックに近い状態から世界の株価は一段と下落しました。

ありがとうファンド現金運用比率(%)

年月	2007年 9月	10月	11月	12月	2008年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
現金運用比率	10.5	8.1	5.0	4.1	3.6	4.1	5.0	5.9	6.0	6.8	6.6	8.0

ありがとうファンドは、昨年末から春先の株価低迷時にもゆっくりとファンドの組入れを進めました。その中心になったのが昨年末に設定された「TMA 長期投資ファンド」です。

新興国でも先進国でも共に生活に欠かすことのできない食料・エネルギーの領域で安定したビジネスを進める企業や成熟国の人々の生きいきとした生活に寄与する企業を厳選して長期投資するファンドです。内外の市場に国境の区別なく選別投資をしているので自然と分散投資にも役に立っています。安定的な銘柄選択をしていることもファンドに必要な要素を持っていると判断しました。

この時期にはTMA以外に外国株式ファンドを若干組み入れました。海外の株式市場も低迷していて、少しずつ為替も有利に進みましましたので組み入れましたが、本格的な組み入れは行いませんでした。

組入れファンドのリターン(2007年8月31日と2008年9月1日の比較)

さわかみファンド	24.1%
トヨタグループ株式ファンドF	28.7%
社会貢献ファンド	21.7%
朝日Nvest グローバルバリュー株オープン	22.0%
TMA 長期投資ファンド*	9.7%
ニッポンコムジェストヨーロッパファンド*	4.3%
ニッポンコムジェストエマージングマーケットファンド*	1.0%
ALAMCO ハリスグローバルバリュー株ファンド2007*	+4.3%
TOPIX (ご参考)	23.5%

*組入れ期間が一年以下なので組入れ開始後のリターンを表示

次に今期の組入れファンドのリターンの状況をご報告します。個々の組入れファンドについてはここでは特にコメントは致しません。ただ、のちの運用方針の欄で組入れファンドについての考え方を含めてご説明したいと思います。

再びこの一年を振り返りますと、組入れファンドもありがとうファンド自身も悪戦苦闘した一年でした。それではこれからの一年、そして更に先の市場についてどのように考えているのか、ご説明したいと思います。

先ほど、今年の金融市場を痛めつけた 4 つの要素を申し上げました。金融危機、景気後退懸念、インフレ懸念、デフレ懸念の 4 つです。まず、最初の金融危機についてはこれからの半年以内に解決すると考えています。次に景気に対する懸念ですが、これは懸念ではなくすでに起こっています。むしろ今はその終わりの時期を考える時です。正確にいって終わり、景気の拡大に向かうのかはわかりませんが今は景気の向上への転換を考える時です。

最後のインフレとデフレについては広い意味では消え去ることはありません。長期的にはインフレは従来以上に問題になる可能性があります。ただ、一方でデフレ、あるいはインフレを抑える力も存在しています。その鍵を握るのは賃金あるいは人件費です。物のインフレ傾向に賃金の上昇が加わると大きなインフレの圧力につながる可能性があるからです。もちろん潜在的には 1970 年代に起こったような供給面からのインフレの可能性も存在します。

いずれにせよ、インフレを常に意識しなければならない時代に入ったと考えています。

今後の運用を考える時に極めて重要と思われることがこの一年間の間に起こりました。それはサブプライム問題です。すでにそのことは申し上げたのですが、この問題の破綻は過去だけではなく将来にわたって大きな影響を及ぼすと考えています。その意味するところは、経済全般の中で金融取引の複雑化・高度化による収益の見通しが大きく下がった、ということです。アメリカのウォール街やロンドンのシティなどの金融ビジネスは段違いの高収益を上げ続けてきました。これはしばらく復活できない可能性があります。これらのビジネスとその周辺のビジネスの収益性が落ちることは企業収益全体にも影響します。これから長期的にはインフレを心配しなければならないことも併せて考えると、一般論では、運用に余り高い収益を期待することは難しくなるかもしれません。しかし、それでありがとうファンドの立ち位置が変わることはありません。私たちは変わらず長期投資の道を歩んで参ります。

この一年はひどい年でしたし運用の結果は申し訳ないものでした。しかしありがとうファンドの運用の努力は続きます。誠にありがたいことにこのようなひどい一年を私たちと一緒に苦勞して歩んでいただいた多くのお客様がいらっしゃいます。それどころか多くの新しい方にこの歩みに加わっていただきました。このことの重みを私たち社員は何よりも重く受け止めております。これまでの経験を踏まえてありがとう投信は更にお客様の役に立つ会社になるための努力を重ねてまいります。これからの社会と市場の変化をみつめつつ新たな一年に望む決意です。今後ともご支援をよろしく願いいたします。

『ありがとうファンドの設定来、基準価額および純資産総額の推移表』



組入投資信託受益証券の基準価額の推移（組入時を100として指数化）と第4期騰落率

さわかみファンド



騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	-5.0%	-6.8%	-24.1%	11.2%

トヨタグループ株式ファンドF
(適格機関投資家専用私募)



騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	-2.1%	-21.2%	-28.7%	18.1%

社会貢献ファンド (適格機関投資家専用)



騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	-5.3%	-7.8%	-21.7%	-4.3%

朝日 Nvest グローバル バリューストックオープン



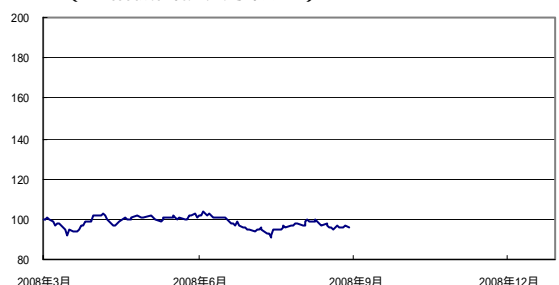
騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	1.7%	-7.1%	-22.0%	8.5%

TMA長期投資ファンド
<適格機関投資家限定>



騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	-4.1%	-4.8%	-	-9.7%

ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンドS A
(適格機関投資家限定)



騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入来
	-2.3%	-	-	-4.3%

ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット
・ファンドS A (適格機関投資家限定)



騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入れ
	-7.0%	-	-	-1.0%

ALAMCO ハリス グローバル バリューストック
ファンド 2007 (適格機関投資家専用)



騰落率	1ヶ月	6ヶ月	1年	組入れ
	-0.7%	-	-	4.3%

運用方針について

ありがとうございます。投資の運用方針の基本は常に変わりません。社会や市場の大きな変動(うねり)を先取りして資産配分を行い、価値ある物に長期投資を行うことです。

運用方針を実行するのが運用担当者ですが、この8月から新しい運用担当者が加わりました。

彼は岡大(おかひろし)といいます。以前はさわかみ投信のアナリスト・ファンドマネージャーを務めていました。運用担当者によって基本の方針が変わることはありません。しかし、運用というのはとても人間的なものです。機械やシステムで運用したり、インデックスで運用するのでもなければ、どんな考え方の人間が運用に当たるのか、というのは極めて大事なことです。新しい運用担当者については今後ご紹介と共に彼の考え方についても知っていただく機会を設けていきます。

ファンドマネージャーの岡が加わったことで、運用の内容も少し変化してゆきます。

まず、組入れファンドについてより深く見ていきます。ファンドオブファンズを共に支えてくれる仲間としてのファンドをより深く知ることによって、ありがとうございます。ファンドとしてどのようにより良い運用ができるか?という答えを今まで以上に突き詰めていきます。

また、市場の大きな変化に対応する運用戦略を従来以上に柔軟で機動的に行うように致します。具体的な内容はこれからの運用レポートなどの中でお伝えいたします。

繰り返しになりますが、ありがとうございます。ファンドの基本的な運用方針は変わりません。その上で更により運用を求めためのひとつのステップとお考えいただきたいと思います。

分配金について

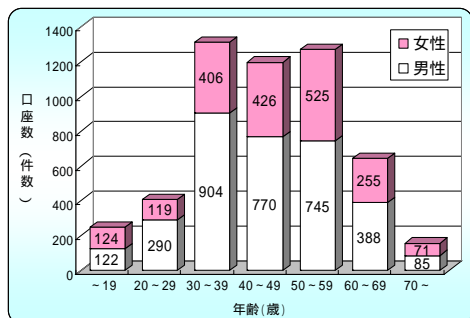
今期の分配金につきましては、種々の要素を勘案の上、前期に引き続き無分配とさせていただきます。

直接販売状況

弊社が行っている直接販売の強みはなんと言ってもお客様の声
が直に聞けることです。お客様の声を素早く次の改善に繋げる努力
をこの一年続けてきました。特に弊社では電話対応、レポート発信、
ホームページ上の発信、セミナーの主催、運用相談をお客様との接
点として重視しております。この中で、レポート及びホームページ
は第4期中に大幅に刷新し、いずれもお客様より好評を頂きました。
セミナーに関しましては特に力を入れ、弊社発起人の会計事務所と
の共催なども加えると期間中24回の開催となりました。中でも投
資を一から学びたいと希望されている方向けのセミナーでは、弊社
の長期的な目標でもある運用知識の普及にも役立ったと考えていま
す。

この一年間の口座数の増加は626口座で、口座数全体では5,270口座となりました。毎月購入サービスは利用者
が150人増え、2,741人となり、約半数のお客様がこのサービスをご利用いただいております。今後も毎月購入さ
れるお客様をどう増やしていくかという事が一つの課題です。

最後に、現在のように金融市場が不安定な時期は、投資家全体に不安が高まりますが、こういう時期こそ弊社の
強みであるお客様との直接対話が長期投資の助けになると考え、今後もこのような活動を継続していく所存ござ
います。



1万口 (元本 10,000 円) 当りの費用の明細

自 2007 年 9 月 1 日 至 2008 年 9 月 1 日

項 目	金 額
(a) 信託報酬	108 円
(投 信 会 社)	(53)
(販 売 会 社)	(43)
(受 託 銀 行)	(12)
(b) 売買委託手数料	0
(投資信託受益証券)	(0)
合 計	108

注1) 期中の費用 (消費税等のかかるものは消費税を含む) は、追加・
解約により受益権口数に変動があるため、下記の簡便法により算
出した結果です。

(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率

(b) 売買委託手数料は、期中の金額を各月末現在の受益権口数の
単純平均で除したものです。

注2) 各項目毎に円未満は四捨五入してあります。

当期中の売買および取引の状況

投資信託受益証券

(自 2007 年 9 月 1 日 至 2008 年 9 月 1 日)

銘 柄	買 付		売 付	
	口 数	金 額	口 数	金 額
TMA 長期投資ファンド	千口 682,626	千円 660,000	千口	千円
社会貢献ファンド	287,463	340,000		
さわかみファンド	177,632	320,000		
トヨタグループ株式ファンド F	113,344	180,000		
NC・エマージングマーケット・ファンド SA	76,600	80,000		
ALAMCO ハリスグローバルバリュー株ファンド 2007	53,290	40,000		
朝日 Nvest グローバルバリュー株オープン	27,000	31,064		
NC・ヨーロッパ・ファンド SA	30,512	30,000		
合 計	1,448,468	1,681,064		

(注) 金額は受け渡
し代金です。また単位
未満は切り捨てです。

利害関係人との取引状況等

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律(改正前法律第15条第2項第1号、改正後第11条第1項)に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人は該当ありません。

第二種金融商品取引業を兼業している投資信託委託会社の自己取引状況
 当期における自己取引はありません。

当社による当ファンドの設定・解約状況 (自2007年9月1日 至2008年9月1日)

期首残高 (元本)	当期設定 元本	当期解約 元本	期末残高 元本	取引の理由
千円	千円	千円	千円	
70,000	0	0	70,000	当初設定時における取得。 当ファンドの商品性を適正に維持するため。

組入資産の明細

ファンド・オブ・ファンズが組み入れた投資対象ファンドの明細

国内投資信託受益証券	当期末(2008年9月1日)		
	口数	評価額	組入比率
	千口	千円	%
さわかみファンド	1,359,313	1,961,353	28.6
トヨタグループ株式ファンドF	1,573,960	1,890,798	27.6
社会貢献ファンド	1,571,542	1,528,954	22.3
TMA長期投資ファンド	682,626	626,377	9.1
朝日Nvestグローバルバリュース株オープン	125,500	145,831	2.1
NC・エマージングマーケット・ファンドSA	76,600	73,636	1.1
ALAMCOハリスグローバルバリュース株ファンド2007	53,290	41,731	0.6
NC・ヨーロッパ・ファンドSA	30,512	28,922	0.4
合計	5,473,346	6,297,605	92.0
銘柄数			8

(注)組入比率は純資産総額に対する評価額の比率です。組入比率は四捨五入してあります。

(注)単位未満は切り捨てです。

投資信託財産の構成

項目	当期末 (2008年9月1日現在)	
	評価額	比率
	千円	%
投資信託受益証券	6,297,605	91.96
コール・ローン等、その他	550,093	8.04
投資信託財産総額	6,847,698	100.0

(注)金額の単位未満は切り捨てです。比率は四捨五入してあります。

資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	当 期 末 (2008年9月1日現在)	円
(A) 資 産	6,881,575,821	
コール・ローン等	583,970,312	
投資信託受益証券(評価額)	6,297,605,509	
(B) 負 債	33,876,916	
未払解約金	1,199,998	
未払信託報酬	32,676,918	
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	6,847,698,905	
元 本	6,796,892,299	
次期繰越損益金	50,806,606	
(D) 受 益 権 総 口 数	6,796,892,299 口	
1万口当り基準価額(C/D)	10,075 円	

損益の状況 (自2007年9月1日至2008年9月1日)

項 目	当 期 末	円
(A) 配 当 等 収 益	5,209,973	
受取配当金	3,585,000	
受取利息	1,624,973	
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	1,473,719,277	
売 買 益	37,703,887	
売 買 損	1,511,423,164	
(C) 信 託 報 酬 等	65,648,778	
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	1,534,158,082	
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	84,242,513	
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	1,500,722,175	
(配当等相当額)	(681,980,730)	
(売買損益相当額)	(818,741,445)	
(G) 計(D+E+F)	50,806,606	
(H) 収 益 分 配 金	0	
次 期 繰 越 損 益 金(G+H)	50,806,606	
追加信託差損益金	1,500,722,175	
(配当等相当額)	(681,980,730)	
(売買損益相当額)	(818,741,445)	
分配準備積立金	199,968,882	
繰越損益金	1,649,884,451	

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価替えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

<注記> (本書作成時点では監査未了です)

期中の設定、解約状況 (自2007年9月1日至2008年9月1日)

期首元本額	期中追加設定元本額	期中一部解約元本額	計算口数当り純資産額
5,407百万円	1,975百万円	415百万円	10,075円

(注) 各元本金額の単位未満は切り捨てです。

お知らせ《当期中の約款の変更》

- ・2007年9月30日 金融商品取引法等施行対応
金融商品取引法、信託法および投資信託及び投資法人に関する法律などの施行に伴い信託約款に所要の変更を行いました。
- ・2007年12月27日 約款第14条の別に定める投資信託証券の変更
当ファンドが投資を行う投資信託証券に、新たに「追加型証券投資信託 TMA長期投資ファンド 適格機関投資家限定」を追加するための変更を行いました。
- ・2008年2月22日 約款第14条の別に定める投資信託証券の変更
当ファンドが投資を行う投資信託証券に、新たに「追加型証券投資信託 ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンドS A (適格機関投資家限定)」を追加するための変更を行いました。
- ・2008年3月7日 約款第14条の別に定める投資信託証券の変更
当ファンドが投資を行う投資信託証券に、新たに「追加型証券投資信託 ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンドS A (適格機関投資家限定)」を追加するための変更を行いました。
- ・2008年6月6日 約款第14条の別に定める投資信託証券の変更
当ファンドが投資を行う投資信託証券に、新たに「追加型証券投資信託 ALAMCO ハリス グローバル バリューストックファンド2007 (適格機関投資家専用)」を追加するための変更を行いました。

【ありがとう投信では本資料の他に当ファンドに関する詳細な内容の情報等を別途提供する場合があります、ご関心のある方はありがとう投信にお問い合わせ下さい】

《指定投資信託証券の運用内容》

『ありがとうファンド』

『ありがとうファンド』は、主として国内外の株式等を投資対象とする投資信託証券を投資対象とします。運用にあたっては、景気変動のサイクルに沿った、アセットアロケーションの切り替えを大前提とします。厳しい基準に基づいて選択されたファンドを活用し、景気サイクルのダイナミズムを先取りする形で、資産配分を行っていきます。運用成果については、特定のベンチマークを設けることはしません。短期的な市場変動に惑わされることなく、長期的な資産の成長を目指して運用を行います。

組入れファンドの選択に当っては、ファンドの運用方針が明確で、一貫性があることを重視し、ファンド・オブ・ファンズのパフォーマンスへの寄与を明確にします。選択の基準としては、運用資金が安定的に推移し、顧客から継続して支持を受けていることも重要な条件とします。

組入れファンドの運用内容のチェックとして、基準価額の推移が運用方針と整合性を持っているかどうか重要な判断基準とします。

指定投資信託証券	運用会社（委託会社）	決算日	ページ
さわかみファンド	さわかみ投信株式会社	2008年8月25日	11
トヨタグループ株式ファンドF （適格機関投資家専用私募）	トヨタアセット マネジメント株式会社	2007年11月13日	12
社会貢献ファンド （適格機関投資家専用）	朝日ライフ アセット マネジメント株式会社	2007年9月20日	14
朝日Nvest グローバル バリュース株オープン	朝日ライフ アセット マネジメント株式会社	2008年3月17日	15
TMA 長期投資ファンド <適格機関投資家限定>	東京海上アセット マネジメント投信株式会社	2008年5月15日	17
ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンド SA（適格機関投資家限定）	日本コムジェスト株式会社	期中の決算はありません	18
ニッポンコムジェスト・エマージングマーケッ ツ・ファンドSA（適格機関投資家限定）	日本コムジェスト株式会社	期中の決算はありません	18
ALAMCO ハリスグローバルバリュース株 ファン ド2007（適格機関投資家専用）	朝日ライフ アセット マネジメント株式会社	期中の決算はありません	18

1 《さわかみファンド》 第9期（決算日：2008年8月25日）

計算期間：2007年8月24日～2008年8月25日

1万口（元本10,000円）当たりの費用明細

自2007年8月24日 至2008年8月25日

項 目	金 額
(a) 信託報酬	172 円
（投 信 会 社）	（ 125 ）
（販 売 会 社）	（ 30 ）
（受 託 銀 行）	（ 17 ）
(b) 売買委託手数料	4
（株 式）	（ 4 ）
合 計	176

（注1） 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、下記の簡便法により算出した結果です。

（a） 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率

（b） 売買委託手数料は、期中の金額を各月末現在の受益権口数の単純平均で除したものです。

（注2） 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

組入資産の明細（上位10銘柄）

2008年8月25日現在

順位	銘柄コード	銘柄名	業種名	組入比率(%)
1	7203	トヨタ自動車	輸送用機器	2.60
2	7267	ホンダ	輸送用機器	1.73
3	4063	信越化学工業	化学	1.58
4	6902	デンソー	輸送用機器	1.45
5	6301	コマツ	機械	1.28
6	6753	シャープ	電気機器	1.27
7	5405	住友金属工業	鉄鋼	1.26
8	4543	テルモ	精密機器	1.21
9	3382	セブン&アイ・ホールディングス	小売業	1.20
10	6326	クボタ	機械	1.18

上記比率は、純資産総額に対する比率です。

損益の状況

自 2007 年 8 月 24 日 至 2008 年 8 月 25 日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	3,774,669,066 円
受取配当金	3,755,341,169
受取利息	16,215,022
その他収益金	3,112,875
(B) 有価証券売買損益	59,708,398,359
売買益	10,620,066,026
売買損	70,328,464,385
(C) 信託報酬等	2,542,523,624
(D) 当期繰越損益金 (A + B + C)	58,476,252,917
(E) 前期繰越損益金	48,830,779,395
(F) 追加信託差損益金	77,954,103,112
(配当等相当額)	(76,236,803,529)
(売買損益相当額)	(1,717,299,583)
(G) 合計 (D + E + F)	68,308,629,590
(H) 収益分配金	-
次期繰越損益金 (G + H)	68,308,629,590
追加信託差損益金	77,954,103,112
(配当等相当額)	(76,236,803,529)
(売買損益相当額)	(1,717,299,583)
分配準備積立金	50,062,924,837
繰越損益金	59,708,398,359

注1) (B) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

注2) (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

注3) (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

2 《トヨタグループ株式ファンドF》 第4期 (決算日:2007年11月13日)

計算期間:2006年11月14日~2007年11月13日

1万口当たりの費用の明細

項 目	前 期	当 期
(a) 信 託 報 酬	57円	65円
(投 信 会 社)	(48)	(54)
(販 売 会 社)	(3)	(4)
(受 託 銀 行)	(6)	(7)
(b) 売 買 委 託 手 数 料	0	0
(株 式)	(0)	(0)
(c) 保 管 費 用 等	1	1
合 計	58	66

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加設定・解約により受益権口数に変動があるため、下記の簡便法により算出した結果です。

(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率

(b) 売買委託手数料、(c) 保管費用等は、期中の各金額を各月末現在の受益権口数の単純平均で除したものです。

(注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 売買委託手数料および保管費用等は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注4) 保管費用等には、監査費用を含みます。

組入資産明細表
親投資信託残高

(2007年11月13日現在)

種類	期首(前期末)		当期末	
	口数	評価額	口数	評価額
トヨタグループ株式マザーファンド	千口	千円	千口	千円
	471,611	1,019,011	1,187,362	2,396,691

(注)口数・評価額の単位未満は切り捨てています。

トヨタグループ株式マザーファンド組入上位10銘柄

(2007年11月13日現在)

株式組入上位10銘柄			
	銘柄名	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	49.60%
2	デンソー	輸送用機器	16.45%
3	豊田自動織機	輸送用機器	6.13%
4	アイシン精機	輸送用機器	5.75%
5	豊田通商	卸売業	4.44%
6	トヨタ紡織	輸送用機器	2.74%
7	ジェイテクト	機械	2.57%
8	豊田合成	輸送用機器	2.15%
7	あいおい損害保険	保険業	1.91%
8	ダイハツ工業	輸送用機器	1.91%

比率(2007年11月13日現在)は、ファンドの現物株式組入れ=100%とした各銘柄の比率です。比率はマザーファンドでの比率です。

損益の状況

前期(2005年11月15日~2006年11月13日)
当期(2006年11月14日~2007年11月13日)

項目	前期	当期
(A) 配当等収益	735円	7,741円
受取利息	735	7,741
(B) 有価証券売買損益	146,495,456	138,494,993
売買益	146,531,543	6,469,883
売買損	36,087	144,964,876
(C) 信託報酬等	2,365,290	6,264,970
(D) 当期損益金(A+B+C)	144,130,901	144,752,222
(E) 前期繰越損益金	57,910,983	188,044,083
(F) 追加信託差損益金	200,244,862	818,099,226
(配当等相当額)	(122,922,126)	(623,108,110)
(売買損益相当額)	(77,322,736)	(194,991,116)
(G) 計(D+E+F)	402,286,746	861,391,087
次期繰越損益金(G)	402,286,746	861,391,087
追加信託差損益金	200,244,862	818,099,226
(配当等相当額)	(123,775,262)	(624,755,748)
(売買損益相当額)	(76,469,600)	(193,343,478)
分配準備積立金	202,041,884	210,752,653
繰越損益金	-	167,460,792

(注1)損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
(注2)損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
(注3)損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

3 《社会貢献ファンド(適格機関投資家専用)》 第3期 (決算日:2007年9月20日)

計算期間:2006年9月21日~2007年9月20日

1万口(元本10,000円)当りの費用の明細

(2006年9月21日~2007年9月20日)

項 目	当 期
(a) 信託報酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 銀 行)	105 円 (91) (3) (11)
(b) 売買委託手数料 (株 式)	11 (11)
(c) 保管費用等	1
合 計	117

(注)期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、下記の簡便法により算出した結果です。(各項目ごとに円未満は四捨五入)なお、売買委託手数料および保管費用等は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率
 (b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 / 期中の受益権口数
 (c) 保管費用等 = 期中の平均保管費用等 / 期中の平均受益権口数

組入資産の明細

親投資信託残高

(2007年9月20日現在)

種 類	期首(前期末)	当 期 末	
	口数	口数	評価額
ALAMCO 社会貢献マザーファンド	千口 650,599	千口 1,335,362	千円 1,658,787

(注) 口数・評価額の単位未満は切り捨て

ALAMCO 社会貢献マザーファンド組入上位10銘柄

(2007年9月20日現在)

順位	銘柄名	組入比率(%)
1	アサヒブリテック	3.1
2	芝浦電子	2.7
3	キヤノン	2.7
4	松下電器産業	2.6
5	キーエンス	2.6
6	本田技研工業	2.5
7	安川電機	2.4
8	ツムラ	2.4
9	DOWAホールディングス	2.3
10	サトー	2.3

(注) 組入比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

損益の状況

(2006年9月21日～2007年9月20日)

項 目	当 期
(A) 配当等収益	37,930 円
受取利息	37,930
(B) 有価証券売買損益	12,911,016
売買損	12,911,016
(C) 信託報酬等	11,349,859
(D) 当期損益金 (A+B+C)	24,222,945
(E) 前期繰越損益金	61,772,459
(F) 追加信託差損益金	246,920,474
(配当等相当額)	(135,362,522)
(売買損益相当額)	(111,557,952)
(G) 計 (D+E+F)	284,469,988
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金 (G+H)	284,469,988
追加信託差損益金	246,920,474
(配当等相当額)	(136,175,497)
(売買損益相当額)	(110,744,977)
分配準備積立金	65,760,734
繰越損益金	28,211,220

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

4 《朝日 Nvest グローバルバリュー株オープン》 第8期 (決算日:2008年3月17日)

計算期間:2007年3月17日～2008年3月17日

1万口(元本10,000円)当りの費用の明細

(2007年3月17日～2008年3月17日)

項 目	前 期	当 期
(a) 信託報酬	284 円	270 円
(投信会社)	(173)	(165)
(販売会社)	(95)	(90)
(受託銀行)	(16)	(15)
(b) 売買委託手数料	13	11
(株 式)	(13)	(11)
(c) 有価証券取引税	5	8
(株 式)	(5)	(8)
(d) 保管費用等	8	8
合 計	310	297

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、下記の簡便法により算出した結果です。

(a) 信託報酬 = 期中平均基準価額 × 信託報酬率

(b) 売買委託手数料 = 期中売買委託手数料 / 期中平均受益権口数

(c) 有価証券取引税 = 期中有価証券取引税 / 期中平均受益権口数

(d) 保管費用等 = 期中保管費用等 / 期中平均受益権口数

なお、売買委託手数料、有価証券取引税および保管費用等は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注2) 各項目毎に円未満は四捨五入してあります。

組入資産の明細
親投資信託残高

(2008年3月17日現在)

種 類	期首(前期末)		当 期 末	
	口数	評価額	口数	評価額
朝日 Nvest バリュー型外国株マザーファンド	千口 7,584,403	千円 29,607,993	千口 10,283,462	千円 31,299,775

(注) 口数・評価額の単位未満は切り捨て

株式組入上位 10 銘柄

2008年3月17日現在

順位	銘柄名	組入比率(%)
1	XTO ENERGY INC	4.8
2	NEOPOST SA	4.4
3	CREDIT SUISSE GROUP	4.0
4	ORACLE CORP	3.8
5	SNAP-ON INC	3.6
6	APACHE CORP	3.4
7	NOVARTIS AG-REG	3.4
8	GLAXOSMITHKLINE PLC	3.4
9	LABORATORY CRP OF AM	3.3
10	BANK OF IRELAND	3.3

(注) 比率は、純資産総額に対する比率です。

損益の状況

前期(2006年3月17日~2007年3月16日)

当期(2007年3月17日~2008年3月17日)

項 目	前 期 末	当 期 末
	円	円
(A) 配当等収益	690,213	3,991,204
受取利息	817,354	4,042,573
支払利息	127,141	51,369
(B) 有価証券売買損益	4,401,418,652	10,027,354,840
売買益	4,728,309,658	268,326,230
売買損	326,891,006	10,295,681,070
(C) 信託報酬等	503,299,854	791,077,534
(D) 当期繰越益金(A+B+C)	3,898,809,011	10,814,441,170
(E) 前期繰越損益金	1,464,066,619	166,382,838
(F) 追加信託差損益金	7,907,408,794	12,590,700,769
(配当等相当額)	(5,575,839,739)	(8,326,233,241)
(売買損益相当額)	(2,331,569,055)	(4,264,467,528)
(G) 計(D+E+F)	13,270,284,424	1,942,642,437
(H) 収益分配金	5,165,661,362	915,193,574
次期繰越損益金(G+H)	8,104,623,062	1,027,448,863
追加信託差損益金	7,907,408,794	11,841,890,033
(配当等相当額)	(5,600,584,121)	(7,613,587,872)
(売買損益相当額)	(2,306,824,673)	(4,228,302,161)
分配準備積立金	197,214,268	-
繰越損益金	-	10,814,441,170

(注1) 当期の課税対象収益分配金に加算した外国所得税額は302円です。

(注2) 損益の状況の中で**(B)有価証券売買損益**は期末の評価換えによるものを含みます。(注3) 損益の状況の中で**(C)信託報酬等**には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。(注4) 損益の状況の中で**(F)追加信託差損益金**とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

5 《TMA長期投資ファンド 適格機関投資家限定》 第1期（決算日:2008年5月15日）
 計算期間:2007年12月27日～2008年5月15日

1万口（元本10,000円）当たりの費用の明細

項 目	当 期
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 銀 行)	18 円 (15) (1) (2)
(b) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	11 (11)
(c) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	0 (0)
(d) 保 管 費 用 等	4
合 計	33

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等も含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、下記の簡便法により算出した結果です。

(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率

(b) 売買委託手数料、(c) 有価証券取引税、(d) 保管費用等は、期中の各金額を各月末現在の受益権口数の単純平均で除したものです。

(注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税および保管費用等は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

組入資産の明細（2008年5月15日現在）
 親投資信託残高

	当期末	
	口 数	評 価 額
東京海上長期投資 マザーファンド	千口 581,707	千円 581,707

(注) 口数・評価額の単位未満は切り捨てています。

親投資信託（東京海上長期投資マザーファンド）の組入上位10銘柄（2008年5月15日現在）

	銘 柄 名	国 名	評価額（邦貨換算金額）	組入比率
			(千円)	(%)
1	トヨタ自動車	日 本	22,596	3.9
2	JOHNSON & JOHNSON	ア メ リ カ	22,516	3.9
3	NESTLE SA-REGISTERED	ス イ ス	20,305	3.5
4	花王	日 本	17,250	3.0
5	GROUPE DANONE	フ ラ ンス	16,271	2.8
6	商船三井	日 本	15,810	2.7
7	ROCHE HOLDING AG-GENUSSS	ス イ ス	15,597	2.7
8	テルモ	日 本	15,480	2.7
9	キーエンス	日 本	15,186	2.6
10	セコム	日 本	14,504	2.5

(注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率です。(注2) 評価額の単位未満は切り捨てています。

損益の状況

項 目	当 期	
	自 2007年12月27日 至 2008年 5月15日	
(A) 有 価 証 券 売 買 損 益	27,494,142	円
売 買 損 益	27,514,748	
売 買 損 益	20,606	
(B) 信 託 報 酬 等	786,991	
(C) 当 期 損 益 金 (A + B)	26,707,151	
(D) 追 加 信 託 差 損 益 金 (売 買 損 益 相 当 額)	27,817,756 (27,817,756)	
(E) 計 (C + D)	1,110,605	
(F) 収 益 分 配 金	0	
次 期 繰 越 損 益 金 (E + F)	1,110,605	
追 加 信 託 差 損 益 金 (売 買 損 益 相 当 額)	27,817,756 (27,817,756)	
分 配 準 備 積 立 金	26,707,151	

(注1) 損益の状況の中で(A)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含まず。

(注2) 損益の状況の中で(B)信託報酬等には信託報酬等に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(D)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

下記ファンドにつきましては、期中に決算はございませんでしたので、参考情報として8月末現在の上位組入銘柄を掲載します。

6 《NC・ヨーロッパ・ファンドSA(適格機関投資家限定)》

マザーファンド株式組入上位10銘柄

銘柄	コムジエト業種	国	比率
1 ROCHE HOLDING AG	医薬品	スイス	7.7%
2 CAPITA GROUP PLC	ビジネス・サービス	イギリス	7.2%
3 GROUPE DANONE	消費財	フランス	7.1%
4 SYNTHES INC	医薬品	スイス	4.6%
5 HENNES & MAURITZ AB	小売	スウェーデン	4.6%
6 STRAUMANN HOLDING AG	医薬品	スイス	4.6%
7 RECKITT BENCKISER	消費財	イギリス	4.3%
8 ESSLOR INTL	医薬品	フランス	4.2%
9 DASSAULT SYSTEMES SA	テクノロジー・通信	フランス	4.1%
10 SODEXO	ビジネス・サービス	フランス	3.7%

比率は、マザーファンドにおける純資産総額に占める割合です。

8 《ALAMCO ハリスグローバルバリュー株 ファンド2007(適格機関投資家専用)》

マザーファンド株式組入上位10銘柄

銘柄	国籍	業 種	構成比率
1 INTEL CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	7.0%
2 DELL INC	アメリカ	テクノロジー・ハード・機器	4.9%
3 HEWLETT PACKARD CO	アメリカ	テクノロジー・ハード・機器	4.2%
4 MERRILL LYNCH & CO	アメリカ	各種金融	4.1%
5 CREDIT SUISSE GROUP AG-REG	スイス	各種金融	4.0%
6 SCHERING- PLOUGH CORP	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	3.7%
7 BANK OF NEW YORK MELLON CORP	アメリカ	各種金融	3.7%
8 ADECCO SA-REG	スイス	商業サービス・用品	3.7%
9 CARNIVAL CORP	アメリカ	消費者サービス	3.6%
10 EXPERIAN PLC	イギリス	商業サービス・用品	3.3%

構成比は、現物株式ポートフォリオに占める比率です。

(組入れ銘柄は2008/8/29基準)

7 《NC・エマージングマーケット・ファンドSA (適格機関投資家限定)》

マザーファンド株式組入上位10銘柄

銘柄	コムジエト業種	国	比率
1 MTN GROUP LTD	テクノロジー・通信	南アフリカ	4.1%
2 CATHAY FINANCIAL-REG-GDR	金融サービス	台湾	3.8%
3 TAIWAN SEMICONDUCTOR-ADR	産業	台湾	3.6%
4 SOUZA CRUZ SA	消費財	ブラジル	3.6%
5 AMDOCS LTD	テクノロジー・通信	イスラエル	3.2%
6 ITC LTD*	消費財	インド	3.0%
7 REMGRO LTD	金融サービス	南アフリカ	2.9%
8 SAPPY LIMITED	産業	南アフリカ	2.9%
9 ANADOLU EFES BIRACIL	消費財	トルコ	2.8%
10 CHEUNG KONG HOLDINGS	金融サービス	香港	2.8%

* 当銘柄については、原株式の株価に連動して価格が変動する証券の組入比率です。